



学校だより

〈学校教育目標〉自ら学び たくましく 心豊かな子

横浜市立長津田小学校

10月号【第650号】

令和8年9月29日

校長 佐藤 正淳



もう一つの授業参観

空高く、秋を感じる頃となりました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。どの学年も運動会に向けた活動が始まりました。全力応援をお願いします！



多様性の包摂に向けて ～国際教室の輝き～



さて、先日の授業参観には、多くの方に足を運んでいただきありがとうございました。どのクラスでも、生き生きとした子どもたちの姿、そして温かく支える教職員の姿をご覧いただけたことと思います。

今回の参観で、非常に印象深い光景がありました。6年生の道徳では、1組が「棟方志功」の生き方を通して「内の困難をどう克服し、強みを磨くか」を学び、2組は「新渡戸稲造」を通して「外に向けてどう貢献していくか」を考えました。自己と社会との関わりを見つめ直す、素晴らしい学びの姿でした。

そして時を同じくして、昨年度新設された「国際教室」を覗くと、本校の“もう一つの授業参観”がありました。6年1組、2組に在籍するネパール国籍の児童2名が、担当教員自作の教材「瞳に光をともし医師」を通して道徳の授業を受けていたのです。

この教材で描かれたのは、ネパールの眼科医、サンドゥク・ルイット医師の半生です。彼はヒマラヤの貧しい村に生まれ、医療を受けることができず大切な妹を亡くした経験から医師を志しました。「貧しい人々にも等しく医療を」という思いを胸に眼科医となった彼は、高価だった白内障手術用の眼内レンズを自国で安価に製造する仕組みを整え、さらに小切開白内障手術の普及にも尽力しました。そして、その技術を自分だけのものとせず、海外から訪れる医師たちにも惜しみなく伝え、世界各地で同じ技術を用いた手術が行われるようになりました。自らも機材を携えて険しい山間部を含む医療の届かない地域へ赴き、これまでに10万人以上もの人々の視力回復に貢献してきました。見返りを求めず、己の強みを社会の困難の克服に捧げるルイット医師の崇高な生き方は、暗闇に沈む人々に文字通り「希望の光」を届けるものでした。

文部科学省の調査によると、公立学校で日本語指導が必要な児童生徒は、2025年度には全国で8万4759人と過去最高となり、この9年で倍近くに増えています。2030年度からの実施が見込まれる次期学習指導要領の検討でも、『多様性の包摂』が掲げられ、外国ルーツの児童生徒の教育充実を目指しています。しかし、その実現に向けた課題(人材確保や支援体制等)が大きいのが現状です。

そんな中での“もう一つの授業参観”の価値を考えます。もし二人が、言葉の壁を抱えたまま在籍級の道徳に参加していたなら、ただ静かに座っているだけで、ルイット医師の生き方から得たような道徳的価値の獲得には至らなかったかもしれません。担当教員が個に寄り添い、ルイット医師の功績を調べ上げて教材化したことで、子どもたちの心には確かな響きがあり、瞳には母国への誇りという美しい光がともりました。

私が学校経営上、最も大切にしているのは「誰一人取り残さない」ということです。ルイット医師が世界の片隅にいる人々に光を届けたように、本校でも、背景や課題の違う子どもたちが同じ教室の中で学び合っています。互いの違いを認め合い、誰もがパズルのように強みを組み合わせて包摂し合う「共育・共創」の経験こそが、社会を明るく照らす大きな力となります。ルイット医師のように、誰もが誰かの足元を照らす光になれる。これからも一人ひとりの可能性を信じ、皆様と共に未来志向の学校を創り上げてまいります。



国際教室 道徳自作教材

「瞳に光をともし医師」

国際教室担当教員が、サンドゥク・ルイット医師(右写真)の生き様を教材化しました。優しい日本語版(ルビ付)、英語版、ネパール語版が収められています。二次元コード(左)か、下URLを参照。

<https://bit.ly/4rGRVC1>

